

## 平成29年度自己評価結果公表シート

### 教育理念

- 平和を愛し、世界の中で活躍する国際人の育成
- 心身共に調和のとれた文化人の育成
- 自然と共生し、地球に生きる自然人の育成

### 教育目標

- ・ 自分のことを大切な存在として愛することができ、他の人の事も尊重し、一緒に生きていける人に
- ・ 伝統や文化を大切にし、世界で活躍できる人に
- ・ 自然の営みに畏敬の念を抱き、生かされている自分に感謝し、自然と共存しながら生きていける人に
- ・ やりたいことを追求し、自分らしく心豊かに生きていける人に

### 1. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・ 幼稚園新教育要領について学び、カリキュラムの見直しを図る。
- ・ 子どもの気づき、興味や関心を引き出し主体的な遊びが広がるよう、子ども自身が選択できる場面や環境を整える。

#### 28年度より引き続き

- ・ 幼稚園教育の質の改善を図るために、教諭が主体的に自己評価を行うことで自らの保育を振り返り、課題を明確にし、日々の保育に取り組む。
- ・ 自園を多視点で客観的に見直し、職員同士の共通の理解を図り、課題を明確化し改善に努める。
- ・ 新制度への移行を意識し、子ども・子育て新制度の理解を深める。

### 2. 評価項目の達成及び取組状況

#### 評価項目 1

幼稚園の教育課程の編成に関して、平成30年度より改訂される幼稚園教育要領を元に、幼稚園教育要領の作成に関わった講師による園内研修を行い、教職員の共通理解を図る。また、とよなかぶんかナースリー（0～2歳児）も含めた発達段階に即した取り組みが行えるよう、各学年のカリキュラムの改善に努める。

#### 取り組み状況

全職員で、幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域、内容に関する理解を図る。月に1度、園長・主任と全職員による話し合いの場を設け、課題を設定し、学年間の連携を図ることが出来るよう、改善に努めた。その際、各学年による取り組み状況をテーマごとに発表しあったり、教職員からの提案によるテーマに基づいて意見交換をするなどし、それぞれが積極的に会議に参加し、

意識を高められるよう取り組んだ。

各学年ごとで月に1度カリキュラム会議を実施し、カリキュラムの改善を行った。行事においては、本年度における目標とねらいを明確にし、思いの共通化を図った。実施後には必ず反省と話し合いの機会を設け、子どもの取り組みの過程を振り返り、その後のプログラムの改善を行えるようにした。

保育者は全体会、学年別カリキュラムを元に、週案、日案を作成し実践する。その後、実践、反省、課題解決を次への保育にいかし、PDCAサイクルを意識しながら改善に生かした。

一人ひとりの子どもの課題を保育者がとらえ、それぞれの今ある姿からの一歩前進を目標に、子どもへの指導をする。また、保護者と保育者がその課題の共通理解をし、子どもとともに取り組めるようにした。

## 評価項目 2

子どもの気づき、興味や関心を引き出し主体的な遊びが広がるよう、子ども自身が選択できる場面や環境を整える。またその様子を写真をとり可視化し、保護者に発信する。

### 取り組み状況

子どもたちの育ちに応じ、子どもの気づき、興味や関心を引き出し主体的な遊びが広がるよう、子ども自身が選択できる場面や環境を整えた。そのために、保育者が子どもたちをよく観察し、思いの把握に努めると共に、子どもが自ら興味を持ち取り組めるよう、環境の設定に工夫をした。

一例として、子どもたちが興味を持ち取り組んだ事柄に対して写真を撮り記録すると共に、『○○新聞』として張り出した。それを保護者や他の子どもたちに見てもらい、活動の内容を知ってもらうことにより、活動をより深めたいという子どもたちの思いが高まり、次の段階として、自分たちが写真を撮り、記録するという活動につながっていった。また、子どもたちの興味関心が様々な方面に広がり、取り組みたいトピックも主体的に考えるなど、活動に広がりがみられた。このように、子どもたちが主体的に考え、友達と協力しながら行動に移すという姿が多く見られた。新教育要領における『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿（健康な心と体、自立心、共同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり、生命尊重、数量・図形・文字などへの関心・感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現）』に繋がる活動が網羅されていたと感じる。

今後も引き続き、10の姿に繋がっていく教育・保育内容がより深まるように取り組んでいきたい。

## 評価項目 3

園内外の研修に参加し、教職員の資質の向上を図り、成果を活用する。

### 取り組み状況

豊中市私立幼稚園教員研修会、公私立合同研修会、大阪府私立幼稚園連盟教員研修会、全日本私立幼稚園連合会研修会等に参加し、成果を活用した。また、自己の課題や、経験年数に見合った研修会に参加し、伝達研修を行い、資料や成果を全職員で共有した。

#### 評価項目 4

保護者の幼稚園教育に対する理解を高めていくと共に、必要とする子育て支援の把握に努める。また、子育ての悩みを抱える保護者には、共に考える機会を持つと共に、関係機関との連携を取れるようにする。

#### 取り組み状況

新年度に行う、学年別懇談会において年間目標等の説明を行い、保護者が豊中文化幼稚園の保育の思いを理解し、同じ思いで協力し合って子育てができるようにした。また、子どもの育ちや子育てに不安を感じている保護者とは、話をする機会を持ち、関係機関との連携を取れるようにした。園内ではカウンセリングを月2回行い、活用してもらえるようにした。

園日より、学年日より、クラス日より等を発信し、園理解や課題等を保護者と共有できるようにした。

保護者が任意で園の教育・保育に参加できる機会を多く設け、子ども達の先生として保育をする機会を持つことで、子ども理解・園理解を図れるようにした。また、教育者側の視点で幼稚園教育を捉え、教員の取り組みの理解を図ることのできるような機会を設けた。

保護者参加の行事に関しては、PDCAのCの部分に保護者アンケートを組み込み、内容を真摯に受け止め、改善すべきものには改善できるように取り組んだ。

#### 評価項目 5

地域の親子が憩える子育て支援事業を行う。

#### 取り組み状況

月2回、0歳～1歳の親子が保育者を交えて遊べる場を提供し、親同士悩みの共有ができたり、保育者に子育ての相談ができたりする場を提供した。（ママカフェ）

月2回、0歳～2歳の親子が保育者とともに遊べる場を提供した。（プレイフルガーデン）

### 3. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己点検・自己評価を行うことで、それぞれが自己の課題を明確化し、ねらいを持って保育に取り組む姿が見られた。

また、自園の教育を理解し、実践していけるよう、取り組み状況を話し合うことで、よりよい教育を提供することができるようになってきている。

全職員参加による研修会を行い、学園のミッションを理解し、今後自園が目指すべき教育を再確認した。